

あなたの知らない清水寺



清水寺の問題点

一般観光客が多く、大半の観光客が清水寺の表層だけに触れ、帰ってしまう。

観光地として利用されており、常に混雑しており、静寂な環境が整っていない。



その結果…

- ① 行為、儀式に至る環境が整っていない！！
- ② 仏教の概念を体験することなく、
『清水寺に来た』という事実で満足してしまう！



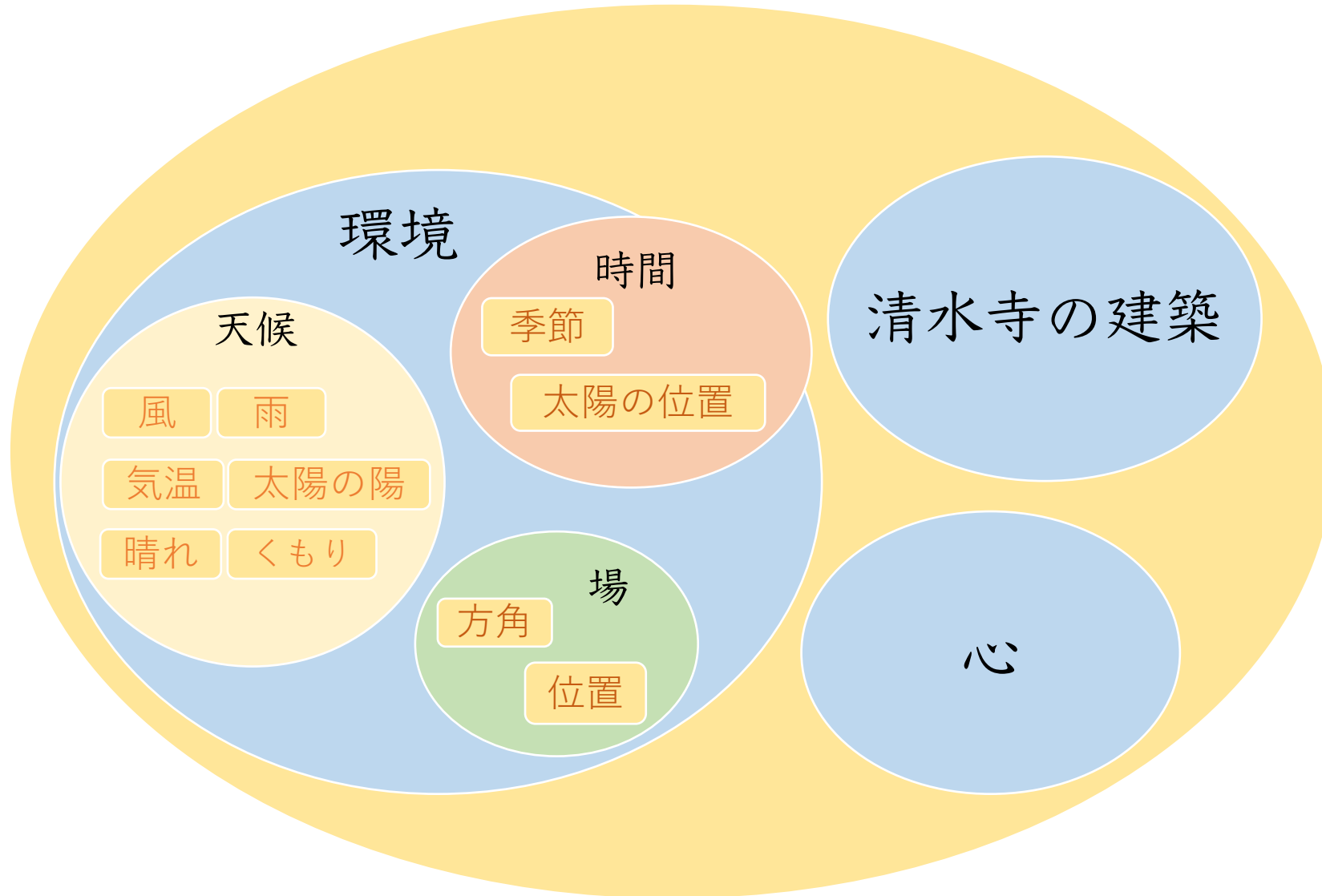
なぜ問題なの？



- 世界遺産のブランドがあるため清水寺が観光地として認知されてしまい、その本質が仏教にあるのではなく、観光要素になってしまっている。
(つまり、清水寺のテーマパーク化)
- 清水寺はそもそもお寺であり、その本質は表層の建築意匠、景色などではなく、空間そのものから連想される仏教そのものの概念を伝えるべき。



仏教の概念



「無我」と「縁起」

無我



常にそこにあって変化せず、
同一で、しかも主体的な存在で
あると考えられるものは無い。
常住なる永遠不変の自我は無い。

縁起



あらゆるものは関係性の中に
あって初めて存在し得ている。
故に自分で自分を支えているも
のは無い。間接的な条件。

(* 竹村牧男 東洋大学学長が語る仏教の話 より)



仏教のあるべき姿

- 自分の心と対峙して自分と向き合うこと

その場、時間、天候等によって決まる、唯一の環境が作り出す独特な空気感の中で手を合わせ、目を閉じ、自分と向き合う。そして、その人だけが探し出せる心の域に達すること。



この行為こそが仏教そのものを体験する、
仏教の概念に触れる、行為なのでは？



① 混み具合を調べる

混み具合をデータ化（可視化）し、提示することによって、
一定割合の観光客がそれを見て、

「人の多い時間は避けて、

少ない時間に行こう！！」

となる！



① 混み具合を調べる

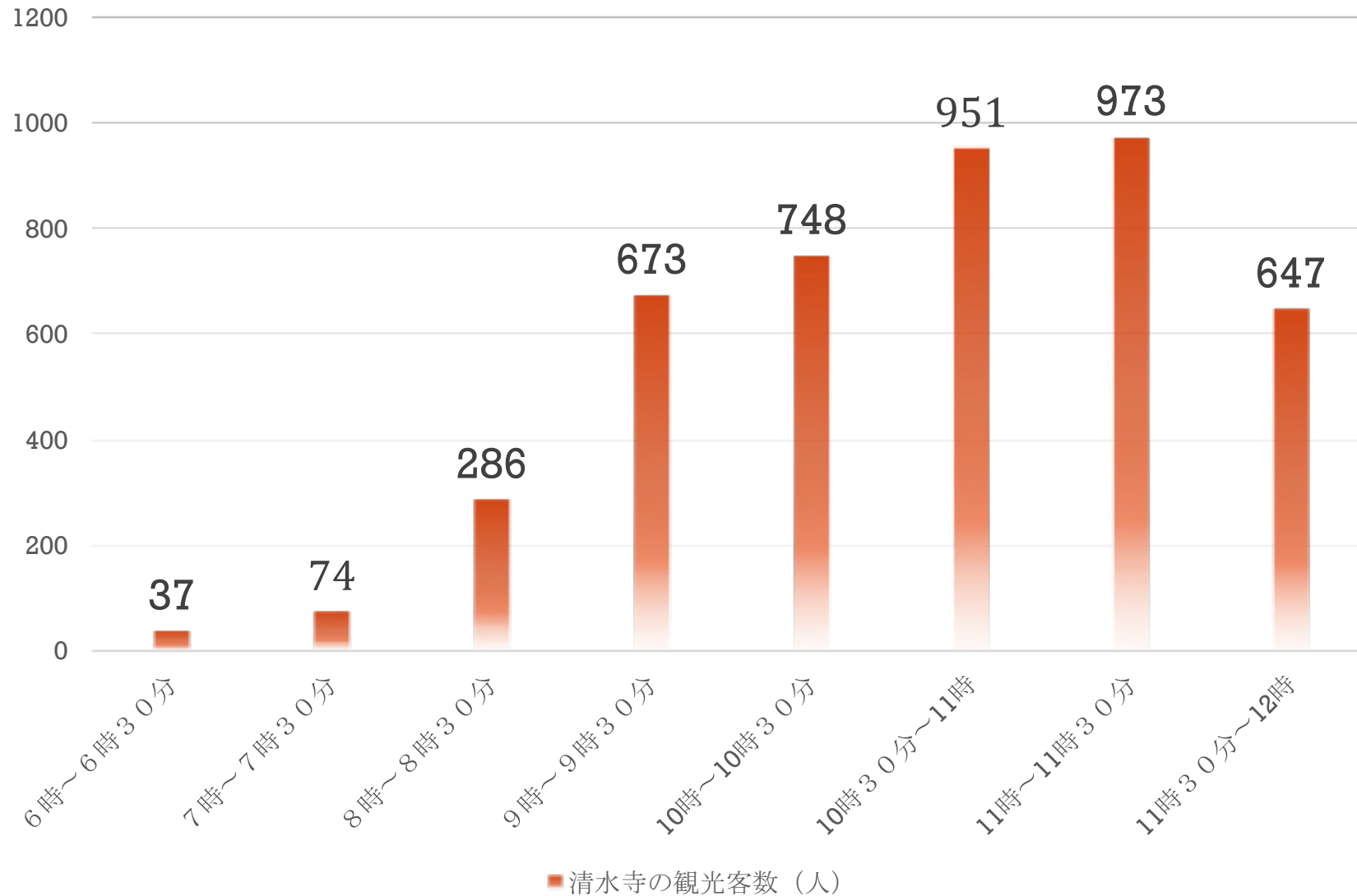


人の少ない時間に来た観光客は**静寂な環境**を体験でき、この静寂の中に身を置いて、自己と向き合うことができる。

仏教そのものを体験できる！



10月8日（火）の30分毎の観光客数



しかし・・・

- 時間別の観光客数を分散しただけ！
- 限られた人しかできない！
- 必然的に早い時間や遅い時間に
清水寺に行けないから体験できない！

より多くの人に仏教の概念に触れてもらうには？



② 新たなイメージの伝承

方法1

- 一．日々、清水寺に参拝する方や働いておられる方に一番好きなシーンを聞きこむ
- 二．そのお話をもとにイメージ図を作る
- 三．作ったイメージ図を参拝者に配る
- 四．イメージ図を持ってもらったまま参拝してもらおうことでその場に遭遇すれば神聖さを感じてもらえる



② 新たなイメージの伝承

方法2

- 一．日々、清水寺に参拝する方や働いておられる方に一番好きなシーンを聞きこむ
- 二．友達や親しい人たちにそれを伝える
- 三．それを実際に清水寺で体験してもらい、
清水寺の神聖さを感じてもらう
- 四．それを広めてもらう



神聖さを感じる

- ・ 自分自身は大きなもの（自然や歴史）の中にいること
- ・ 自分自身はその中の小さなものであると感じること
- ・ 清水寺の本質に触れることが出来ること



例えば…

よく晴れた朝方。

舞台を過ぎて、本堂から出るとき、

本堂の屋根のある暗いところから、

屋根のない明るいところに抜けるために、

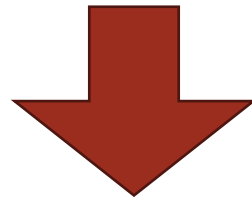
眩い光がパッと差し込み

まるで仏様が私たちを優しく包み込んでくれるようである



これらの結果…

仏教を体験し、仏教の概念に触れてもらうことが出来る。



- 観光客⇨仏教の本質に触れて、参拝者になることが出来る
- 清水寺⇨観光客を参拝者として、受け入れることが出来る





ご静聴ありがとうございました